



資料館だより

No.30
2010年
5月号

過去と未来がひびきあう

—ようこそ、エコミューズへ。

www.aozora.or.jp/shiryou/

西淀川・公害と環境資料館
あおぞら財団付属 **エコミューズ**

イタイタイ病の今がわかる スタディツアーのwebサイトが完成しました



神岡鉱山からの廃水が流された神通川

昨年8月に実施したスタディツアーでは、色々な立場の方々(被害者家族、農家、行政、医者、企業、弁護士など)から話を伺いました。伺った話を参加者だけが聞くのではなく、多く

の人にも聞いてもらえたらと思い、ウェブサイトを作製することとなりました。イタイタイ病の概要や参加者の感想、訪問先などの情報等も掲載しています。参加者の感想には「理論の構築や正統性、概念や定義にこだわり、いわゆる机上での議論で空回りしていたようです。現実と直面し、これまでの考えが根底から覆されました。」「発信しようとしている人がいるのに、受信する私たちが常に敏感になってアンテナを張っていなければ、全て無駄になってしまう。次につなげるということは、伝える人と聞く人の姿勢が同じになって、初めてそこで成立しうるものなのだと思います。」などと、現場に行き行って見えてきたことが綴られ、公害があった現場で経験を伝えていくことの意義を再確認できます。皆さんもぜひご覧ください。<http://www.studytour.jpn.org/index.html>



本事業は(独法)環境再生保全機構地球環境基金助成事業の一環です。

今年は、新潟水俣病の現地でスタディツアーを行います。
詳しくは裏面をご覧ください。

ただいま エコミューズの要は資料整理。
資料整理中 現場から生の声をお届けします。

「西淀川資料として送る」と書かれた箱の中身は? —1980年代の公害運動資料—

3月4日に全国公害患者の会連合会より1980年代~90年ごろの公害運動資料をいただきました。

全国公害患者の会連合会の幹事会用の手書きレジュメなどが12点のファイルに収められており、公害健康被害補償法見直し反対運動の様子を読み取ることができます。

80年代は公害反対運動にとって試練の時期でした。1978年には環境庁がNO2環境基準を緩和し、

企業などは「公害は終わった」として補償費の負担を減らそうと動いていました。こうした中で1981年に発足した第二次臨時行政調査会では、公害健康被害補償法の見直しが答申されました。これに対して患者側は、硫酸酸化物の濃度はかつてより改善されたが、窒素酸化物の濃度は依然として高いままであることをあげ、公害がまだまだ終わっていないことを訴えました。しかし1987年には公害健康被害補償法が改正され、第1種公害指定地域(大気汚染地域)が解除されてしまいます。

このような動きの背景には、オイルショック後の安定成長を規制緩和によって成し遂げたい政府や企業の思惑があったようです。いっぽうで公害の主な汚染源として自動車の排気ガスが以前より大きな位置を占めるなど、健康被害の対策費を負担すべき汚染者が曖昧になっていく時代でもあったのです。

ダンボールには「西淀川に資料として送る」と書いてあり、大切な資料はエコミューズに送れば保存してもらえるという認識が深まりつつあるようです。とてもうれしいです。

エコミューズ資料整理スタッフ 田尻悠太



こんな状態で届きました



開けてみると、ファイル12冊

もりもとまきの アーキビストの目

☆☆☆所蔵資料紹介☆☆☆

新潟水俣病・阿賀野川と共に 一映画『阿賀に生きる』

エコミューズでは、今年8月5～8日、新潟水俣病の現場を訪ねるスタディツアーを開催します。そこで今回はエコミューズ所蔵の映像資料のなかから、新潟水俣病の被害地域である阿賀野川流域に暮らす人々の生活を追ったドキュメンタリー映画、『阿賀に生きる』(佐藤真監督、カラー115分、VHS、1992年)を紹介します。

新潟水俣病は、昭和電工鹿瀬工場

から阿賀野川に流された、メチル水銀化合物を含む排水によって引き起こされた公害病です。患者は手足のしびれや運動障害など、さまざまな症状に苦しみました。水質汚染による漁業への影響も深刻でした。

映画は、阿賀野川と共に生きる人々一米作りを続ける老夫婦、川風を知り尽くした川船頭、川舟を作り続ける老木工、餅つき職人の老夫婦に3年間密着して撮影されました。川筋に暮らす人々の、なにげない日常。そしてそのなかで、患者会活動や未認定患者問題など、新潟水俣病と向き合う姿が映し出されます。それは決して外側から眺めるだけでは伝えることの出来ない、公害地域の「今」を捉えた映像です。

現地を歩き、生の声を聞き、新潟水俣病の「今」を知って、伝えたい一スタディツアーを前に、そんな思いを新たに



川と共に生き、公害と闘う

プログラム版 <http://aozorabsw.exblog.jp/i11/>

アーキビストとは、文書や資料の収集・整理・保存に関わる専門家のことです。



公害地域の今を伝えるスタディツアー2010 ～新潟・水俣病の地を訪ねて～



【日程】

- 2010年8月5日(木)・6日(金)・7日(土)・8日(日)の4日間
- 事前勉強会 講師 関礼子氏(立教大学社会学部現代文化学科教授) 7月11日(日)都留文科大学 7月18日(日)あおぞら財団

【定員】40名

【参加費】約8,000円(予定)(宿泊費、旅費、食費込み)

【対象者】公害・環境問題に関心を持ち、持続可能な地域づくりに取り組む意欲のある人。参加記録の執筆をしてもらいます。それらの情報を元に新しい公害教育の教材および冊子を作成します。

【主催】あおぞら財団(財団法人公害地域再生センター)

【スタディツアーでのおもな訪問・ヒアリング先】(予定)

●訪問先＝環境と人間のふれあい館—新潟水俣病資料館—、昭和電工跡地、漁村など

●ヒアリング先＝被害者、活動支援者、医師・弁護士関係者、行政など

【移動手段】関西、関東からチャーターバス有。現地集合の人は旅費自己負担

【申込み方法・締め切り】

・氏名、連絡先(住所・電話番号・メールアドレス)、所属を記入の上、あおぞら財団に連絡をお願いします。

・締め切り＝6月30日(水) 定員になり次第しめきります

※本事業は(独法)環境再生保全機構地球環境基金助成事業の一環です。

お知らせ

エコミューズ活動資金
【ハモン基金】

寄付協力をお願い
エコミューズを支えてください。あなたの寄付金は青空へつながります。

●寄付の方法
郵便局からお振込いただけます。また、直接エコミューズにお越しいただいても結構です。

【口座番号】
00960893
千円
【口座】十万円／一万円／

【口座番号】
00960893
千円
【口座】十万円／一万円／

【加入者名】あおぞら財団
※通信欄に「ハモン基金への寄付」とご記入ください。一口の金額はお選びください。

ボランティア隊

「エコミューズ★募集
あなたも「エコミューズ」に入っちゃおう！資料整理や展示、イベントの手伝いなど、活躍の場がいろいろあります。交通費●実費支給(上限2000円)どうぞお気軽にお問い合わせください。

どうぞお気軽にお問い合わせください。



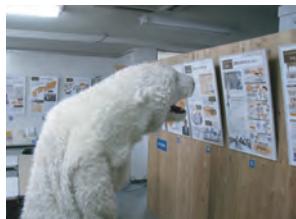
エコミューズの活動は
Hamon基金によって支えられています。



編集後記

エコミューズにはいろんなお客様が来られますが、シロクマが来館したのは初めてです!(Y)

シロベエさん
R
u
e
c
h
e
r
t
h
e
n
p
e



資料館だより No.30
2010年5月号(隔月1日発行)

発行所 あおぞら財団付属
西淀川・公害と環境資料館
(エコミューズ)

連絡先 大阪市西淀川区千舟1-1-1
あおぞらビル5F(〒555-0013)

TEL:06-6475-8885 FAX:06-6478-5885
Email: webmaster@aozora.or.jp
<http://www.aozora.or.jp/shiryou/>

エコミューズは
青空を未来へ手渡す記録のひろば

西淀川の公害・環境、地域に関する記録資料や環境学習の教材・ビデオなどが豊富です。ぜひご利用ください

開館 ●月曜日、金曜日(祝日は休み)
10:00AM～5:00PM [要予約]

利用 ●図書の出し入れ期限は2週間
書庫資料や裁判記録は閲覧のみ